

23日 火曜

列王 I



8:54 こうしてソロモンは、この祈りと願いをことごとく【主】にささげ終えた。彼は、それまでひざまずいて、天に向かって両手を伸べ広げていた【主】の祭壇の前から立ち上がり、

8:55 まっすぐに立って、イスラエルの全会衆を大声で祝福して言った。

8:56 「【主】がほめたたえられますように。主は約束どおり、ご自分の民イスラエルに安住の地を与えてくださいました。しもべモーセを通してお告げになった良い約束はみな、一つも、地に落ちることはありませんでした。

8:57 私たちの神、【主】が、私たちの先祖とともにいてくださったように、私たちとともにいて、私たちを見放さず、私たちをお見捨てになることがありませんように。

8:58 私たちの心を主に傾けさせ、私たちが主のすべての道に歩み、私たちの先祖にお命じになった命令と掟と定めを守らせてくださいますように。

8:59 私が【主】の御前で願ったこれらのことばが、昼も夜も、私たちの神、【主】のみそば近くにあって、日常のことにおいても、しもべの訴えや、御民イスラエルの訴えを正しくかなえてくださいますように。

8:60 こうして、ついに地上のあらゆる民が、【主】こそ神であり、ほかに神はいないことを知るに至りますように。

8:61 あなたがたは、今日のように、私たちの神、【主】と心をつにし、主の掟に歩み、主の命令を守らなければならないのです。」

8:62 それから、王と、一緒にいたすべてのイスラエル人は、【主】の前にいけにえを献げ

た。

8:63 ソロモンは【主】へのいけにえとして、牛二万二千頭と羊十二万匹の交わりのいけにえを献げた。こうして、王とすべてのイスラエルの人々は【主】の宮を奉獻した。

8:64 その日、王は【主】の宮の前庭の中央部を聖別し、そこで全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を献げた。【主】の前にあった青銅の祭壇は、全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を受け入れるには小さすぎたからである。

8:65 ソロモンはこのとき、ともにいた全イスラエル、すなわち、レボ・ハマテからエジプト川に至るまでの大会衆と一緒に、七日と七日の十四日間、私たちの神、【主】の前で祭りを行った。

8:66 八日目に王は民を帰らせた。民は王に祝福のことばを述べ、【主】がそのしもべダビデと、その民イスラエルに下さったすべての恵みを喜び、心満たされて、彼らの天幕に帰って行った。

「ひざまずいて」「立ちあがり」とは礼拝の真剣な姿です。私たちもこのように、精一杯ささげる礼拝をしたいものです。

主への祈りはまず、「良い約束は一つもたがわなかった。」という、過去の恵から来る信頼によって始められています。主の恵を忘れずに、信仰を強められましょう。

また主への願いは、「すべての国々の民が、主こそ神であり、ほかに神はないことを知るようになるため」という目的のためです。主の恵をたくさんいただき、主の証人となりましょう。

ソロモンの信仰と指示によって、「牛二万二千頭と羊十二万頭」という、膨大な数のささげものが主にささげられました。これらは罪の赦しなど

大切なものです。神を信じない人にとっては、無駄な浪費でしょうが、しかしそれは見えないお方を第一とするという不変の価値観によるものです。このように「聖なる浪費」を、私たちは重要視する必要があります。それがなくなると、見えるものばかりを追い求めるという、表面的で人間中心の限界から出ることができなくなってしまいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

